

早稲田大学大学院法務研究科 女性法曹輩出促進の取り組み

2024年8月28日

於：中央教育審議会法科大学院等特別委員会

1. FLPの経緯
2. 背景にある問題意識
3. 加算プログラムでの目標値と現在の状況
4. これからの課題

FLP(女性法曹輩出促進プロジェクト)の経緯

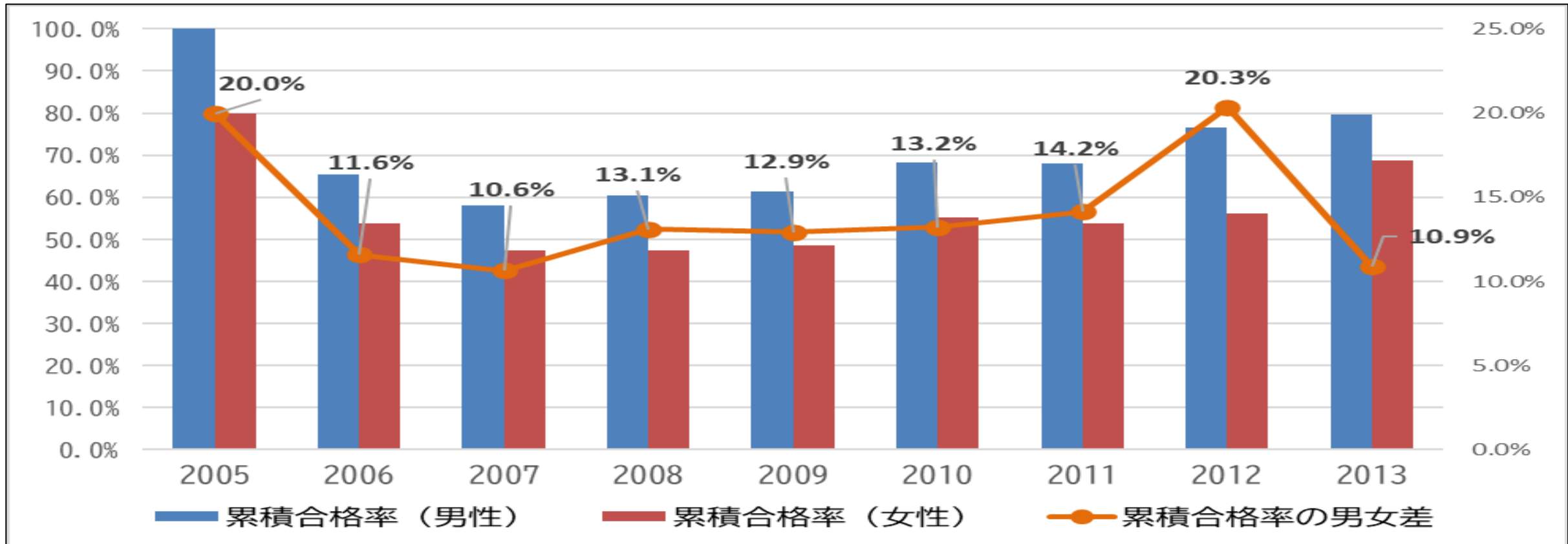
- 2014年、AAと当時の教務主任のディスカッションからスタート。
- 2015年以降、文部科学省法科大学院公的支援見直し加算プログラム(いわゆる「加算プログラム」)として始動。「女性法曹輩出促進プロジェクト(Female Lawyers Project, FLP)」と命名。

(2015年の文科省への提出文書より)

本研究科は、より複雑で多様化した現代社会のニーズに即応して、新たな時代を切り拓いて正義と公平を体現する法の担い手として社会に貢献する「挑戦する法曹」の育成を目的として、多彩なバックグラウンドを持ち個性あふれる人材を多数受け入れてきた。女性法曹輩出促進プログラムもまた、付加価値を有する多様な人材を法曹として輩出するという本研究科の理念を実現するための取り組みである。

背景にある問題意識

- 女性の司法試験結果が男性と比較して振るわない(当時)
- 女性学生には、男性学生とは異なる学修上の困難があるのではないだろうか。



女性の司法試験結果が振るわない原因 (当時FLP内で議論したこと)

- 女性特有の健康上の問題(出産育児含む)
- 家事の負担が重いという家庭内の性役割による問題
- 女性が大学院に行くことや、司法試験に挑戦することに対する、保護者や家族の否定的イメージ
- 女性法曹のキャリア・モデル不足(男性学生と同じ程度に、身近なロールモデルを持って法曹を志すことが難しい)

原因はひとつではない。様々な要因が複合的に関係していると思われる。したがって、女性法曹の輩出を促進するためには、学生生活上の直接的な支援から、女性が一般に置かれている社会的な状況を考慮した対応まで、幅広い活動が必要。

FLP活動の3つの柱

(1) 法曹を志す女性の層を広げる

中高生、学部生、社会人を対象に、法曹になるビジョンを持たせることを目的とした、社会で活躍する女性法曹を招いた講演会・シンポジウム等の実施（FLPシンポジウム等）

(2) 学生に身近なロールモデルやメンターを提供する

女性の先輩法曹との交流会の実施（女性法曹カフェ、おしゃべりカフェ）

(3) 女性の学生に対する具体的な学修支援等を実施する

AAとの連携、産休育休中のリモート支援

女性の学生に対する具体的な学修支援 主要な取り組み

- (男女問わず)未就学児のいる学生に対し、必修科目の時間割が保育園のお迎え時間に間に合うように配慮する。
- (男女問わず)子どもの予防接種のための欠席等については、不利益に扱わない。
- 出産・育児によって休学する学生に対しても、AAによるサポートを継続する。休学中は原則としてAAサポートの対象外であるが、モチベーション維持のためには継続的な支援が必要であるというFLP会議での提案から導入。

学内体制

- 3名の教員(教務主任2名、教務副主任1名)に加え、法務教育研究センター助手、修了生でAA(アカデミックアドバイザー)を務めるメンバーが参画。
- 2か月に1回程度の会議を持ち、企画を進めていく。

レギュラー企画

- FLPシンポジウム（6月頃）：全国に向けたオンライン発信。中高生への広報強化。他の法科大学院とも連携。（千葉大LS・琉球大LSとの共催、中央大LSの協力。複数のLS修了生の登壇。）
- 女性法曹カフェ（12月頃）：学内向け。法科大学院生・学部法曹コース在籍者への意識付け。原則対面で行う。
- おしゃべりカフェ（不定期）：「会いに行けるロールモデル」の提供。
- 司法試験合格者アンケート（1月頃）：学生のニーズの把握。
- AAとの意見交換会：アンケート結果を受けた課題の共有。

加算プログラムでの目標値と現在の状況(1)

2018年度加算プログラムでの目標値(2018～2023まで)

①本研究科への志願者における女性の割合 40%

2018年時点で32.3%

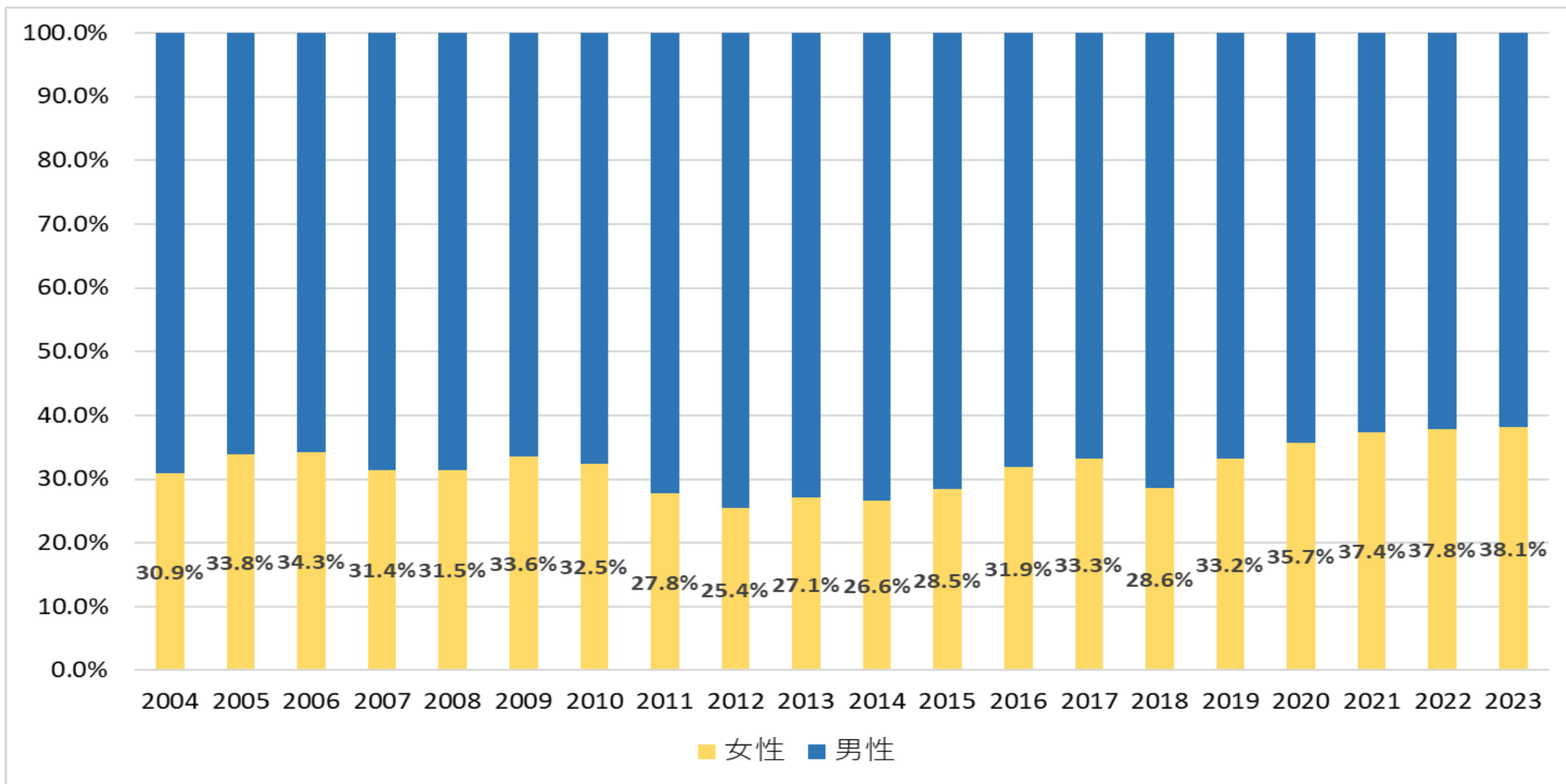
2023年度38.1%(入学者45.8%)

②本研究科の司法試験合格者における女性の割合 40%

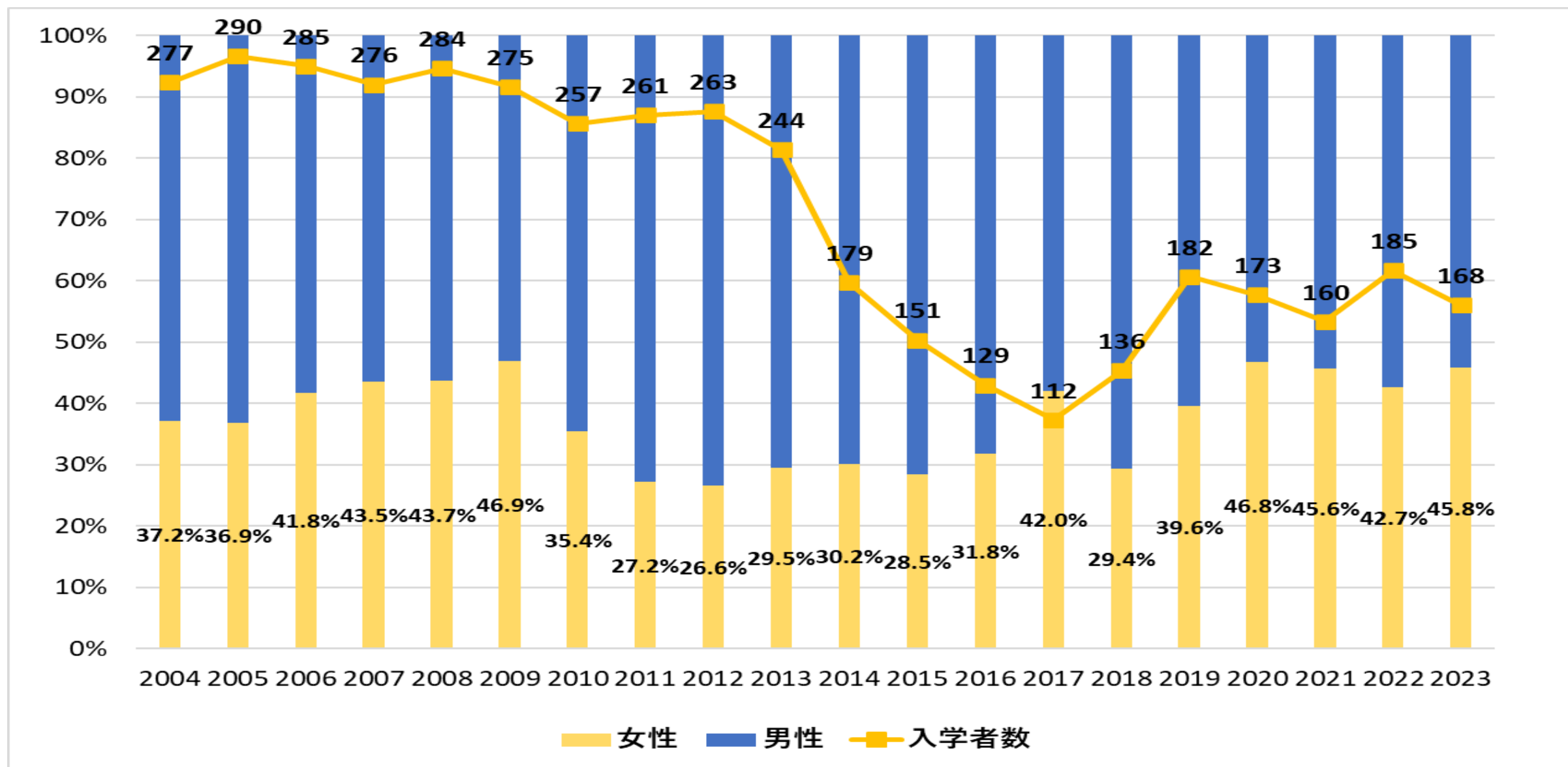
2018年(2017年度修了生初年度受験)で26.4%

2023年度41.1%

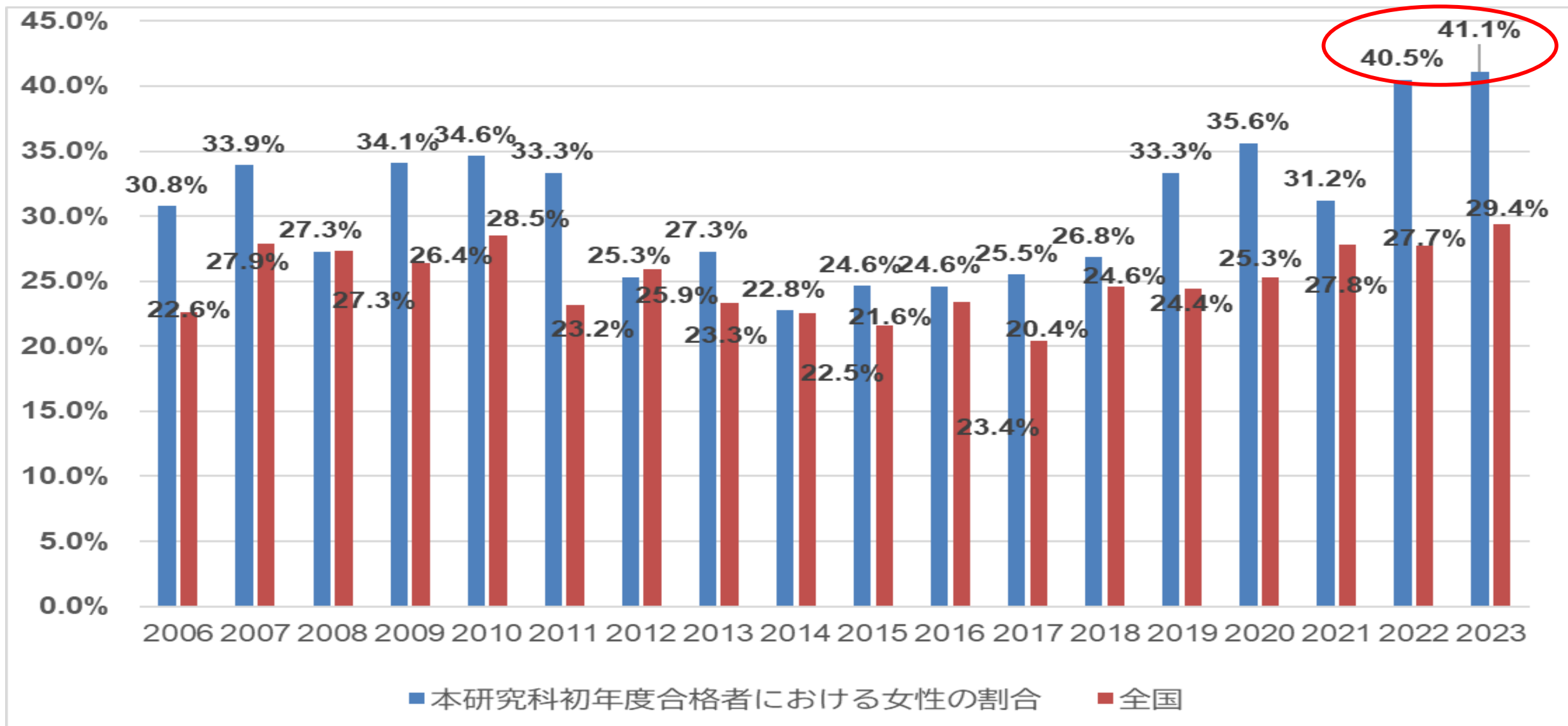
志願者数における女性の割合



入学者数における女性の割合



本研究科の司法試験合格者における女性の割合



備考：2023年データは、それ以前のデータと揃えるため、在学中受験を含んでいない。

加算プログラムでの目標値 と現在の状況(2)

2023年10月からの目標値：
女性の本学修了生の累積合格率を
70%へ！

- 創立以来2022年度までで、
1,198名の女性の修了生を輩出
し、685名が合格。ここまでの累
積合格率は57.2%
- これを7割に引き上げ、「早稲田
LSに入れば法曹になれる」を確
立させる。

修了年度	累積合格率		
	男性	女性	男女差
2010	68.3%	55.1%	13.2%
2011	68.0%	53.8%	14.2%
2012	76.6%	56.3%	20.3%
2013	79.6%	68.7%	10.9%
2019	79.4%	62.9%	16.6%
2020	70.1%	71.7%	-1.6%
2021	61.4%	55.7%	5.6%
2022	53.5%	48.4%	5.1%

実質令和5年度の初年度合格率。全国では
未だ7ポイント程度の男女差。令和5年度試
験合格者における女性の割合も29.4%

これからの課題

- 「3 + 2」が導入され、「5年で司法試験に合格し、法曹になれる」という予見可能性が確立できれば、女性の学生のみならず、その保護者も安心して応援することができる。
- いかにしてより優秀な女性を早稲田大学LSに取り込み、法曹として輩出していくか。「女性法曹輩出の早稲田」というブランドの確立。
- より多くの女性の学生をエンパワメントしていくには、教職員全体としての意識の共有が必要。
- 早稲田から、他大学とも連携した発信、取り組みを強化し、女性法曹の輩出を牽引していく。

ご清聴ありがとうございました。